

# 導入牛は隔離飼育しましょう！

導入牛は、農場に無い病原体を保有している場合があります。一度、農場へ病原体が侵入すると、家畜の生産性低下や死廃事故を引き起こすことがあります。農場バイオセキュリティ強化のため、導入牛は隔離飼育しましょう。

## 導入牛のリスクについて

<ヨーネ病>

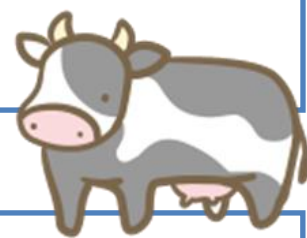
- ◆輸入牛：今年、オーストラリアから輸入された牛の摘発率 1.5%（ヨーネ菌の検出率4%）
- ◆導入牛：北海道を中心に年間約300戸、約700頭が摘発

<その他>

- ◆外部導入牛や預託帰り牛が監視伝染病やその他の肺炎・下痢等の病原体を持ち込む可能性あり

## 導入準備や管理の注意点

- ① 導入元農場の衛生管理情報の把握（ヨーネ病カゴリーの確認、ワクチン接種歴等）
- ② 導入牛等の隔離場所の確保と消毒
- ③ 輸送車両の洗浄・消毒（農場入出時）
- ④ 導入牛は一定期間（輸入3か月、導入3週間）隔離飼育
- ⑤ 必要なワクチン接種、駆虫剤、抗菌性物質、ビタミン剤投与等
- ⑥ 異状があれば診療獣医師に連絡



## 隔離飼育について

- ◆隔離飼育（例）：別棟、板等で房を区切り、1マス空ける等
- ◆直接・間接的な接触防止（例）：最後管理や石灰帯、踏込消毒槽等による消毒

## ヨーネ病自主検査について

- ◆検査手数料：抗体検査600円、リアルタイムPCR検査1,300円（1/2補助あり）  
検査を希望する場合は、当所に連絡してください。

☆伝染病を疑う症状があれば直ちに家畜保健衛生所へ連絡して下さい。

長命連産のため大切に飼育しましょう！